



日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
 千葉県議会 2 月定例会では、公明党千葉県議会議員団を代表して質問に立ち、物価高騰対策、防災、医療・福祉など、県民生活に直結する課題を取り上げましたので、ダイジェストでご紹介します。社会環境が大きく変化する中、今あらためて大切なのは、県民一人ひとりの生命、生活、そして尊厳を守る県政であると私は考えています。
 令和 8 年度当初予算や物価高騰対策にも、水道料金負担の軽減や带状疱疹ワクチンへの支援、介護現場を支える相談体制の整備など、暮らしを支える施策が盛り込まれました。これからも、現場の声に寄り添い、安心と希望を積み重ねる県政を前へ進めて参ります。

\\ R8 年 2 月定例県議会代表質問 //

防災 ～災害から命と暮らしを守るために～

01 避難所の質の向上
 避難所の「質」を高め、安心できる環境づくり

能登半島地震では、避難生活の長期化により、プライバシー不足や衛生環境の課題が大きく浮き彫りになりました。
 私は、避難所は単なる待避場所ではなく「生活の場」であるとの視点から、量の確保だけでなく質の向上も進めるべきと訴えました。
 県は、大学や民間施設の活用による避難所確保に加え、トイレカーや簡易ベッドの整備、パーティションや蓄電池の導入支援など、量と質の両面で取り組む考えを示しました。
 今後も、高齢者、障害のある方、妊産婦、乳幼児を抱える家庭など、誰もが安心して過ごせる避難所環境の整備を求めて参ります。

02 被災者支援・生活再建
 応急対応だけで終わらせない生活再建支援

災害は発生直後だけでなく、その後の生活再建こそ重要です。
 私は、罹災証明の発行や仮設住宅の提供だけでなく、相談支援や地域のつながりの再生まで見据えた支援強化を提案しました。
 県は、市町村への職員派遣や支援システム導入、関係団体との連携強化を進める考えを示しており、被災者一人ひとりに寄り添う支援の充実を今後も求めて参ります。



03 通信確保・木密対策
 災害時の通信確保と火災に強いまちづくり

災害時の通信確保は、初動対応の生命線です。
 私は、衛星通信を含む多重化を進めるよう提案しました。
 県は、防災行政無線の衛星回線・地上回線の二重化や設備更新を進める考えを示しました。また、木造住宅密集地域の火災対策についても、道路整備や不燃化、老朽住宅の除却支援などを通じ、災害に強いまちづくりを進める方針が示されました。



物価・生活支援 ～物価高から暮らしを守るために～

01 キャッシュレス還元
 物価高から暮らしを守る キャッシュレス還元を拡充

物価高騰が長引く中、県民の皆さまの負担軽減と地域経済の下支えを両立する施策として、キャッシュレス決済のポイント還元事業を取り上げました。
 県は、昨年夏のキャンペーンでは還元原資 30 億円に対し、約 7 万 6 千店が参加し、延べ約 300 万人が利用するなど消費喚起に効果があったと評価し、令和 8 年度は還元原資を 50 億円に拡充する方針を示しました。
 今後は、中小店舗への波及や地域偏在の検証、デジタルに不慣れな方への配慮など、誰もが利用しやすい制度となるよう引き続き求めて参ります。



02 給食費の負担軽減
 給食の質を守りながら 保護者負担の軽減を前へ

学校給食は、子どもたちの健やかな成長を支え、食の大切さを学ぶ重要な教育活動です。
 一方、物価高騰により食材費や光熱費が上昇し、保護者負担の増加が懸念されています。
 私は、給食の質を守りながら負担軽減を進めるよう求めました。
 県は、来年度から国の新たな給食費負担軽減制度が始まることを踏まえ、市町村の実情に合った支援額や中学校での早期実施を国に要望していくと答弁しました。
 今後も、栄養価の維持、地元食材の活用、家庭負担の軽減が両立するよう取り組んで参ります。

医療・福祉 ～医療と福祉に安心を届けるために～

01

重症心身障害児者支援

重症心身障害児者と家族を支える短期入所の充実へ

医療的ケアを必要とする重症心身障害児者の暮らしは、多くの場合、家族が中心となって支えている現状があります。特に、短期入所、いわゆるレスパイト支援は、家族を支える重要な基盤ですが、対応できる事業所が少ない課題があることから、短期入所事業所の拡充と支援人材の確保について質問しました。

県は、医療型短期入所事業所を優先的に補助し、新規参入の掘り起こしや開設支援を進めるとともに、医療的ケア児等支援センター「ぼらりす」で看護師等への専門研修を実施し、人材確保・育成に取り組む考えを示しました。

今後も家族が安心できる支援を求めます。

02

難病患者の就労

難病患者の「治療と仕事の両立」を支える環境づくり

難病患者の方が働き続けるには、治療と仕事を両立できる環境づくりが重要です。

私は、就職の入口支援だけでなく、治療と仕事を両立しながら働き続けられる環境整備の重要性を訴えました。

県は、難病相談支援センターでの就労支援やハローワークとの連携、県職員採用試験の実施などに取り組んでいると答弁しました。

今後も職場理解の促進を後押しして参ります。



03

介護現場のカスタマーハラスメント対策

介護現場を守る カスハラ対策をさらに前へ

介護現場のカスタマーハラスメント対策は、人材確保の面からも重要です。

私は、これまでも対策を求め、昨年1月には介護事業所向けの法律相談窓口が設置されました。

今回の県議会では、その利用状況と今後の充実策を確認。

県は、これまでに12件の相談に対応し、「的確な助言が得られた」「方針が明確になった」といった声が寄せられていると説明。さらに令和8年度からは、訪問系介護事業所の職員を対象に、利用者や家族とのトラブルなど幅広い相談に対応できる新たな窓口を設置する考えを示しました。

今後も、介護職員が安心して働き続けられる環境整備を後押しして参ります。



04

医療用ウィッグ助成

医療用ウィッグ助成の拡充へ 当事者の声を県政に

がん治療やさまざまな疾患による脱毛は、身体的負担だけでなく、心理的・社会的負担にもつながります。

私は、医療用ウィッグ助成について、がん患者に限らず、自己免疫疾患や皮膚疾患、外傷、先天的疾患などで頭髪を失った方にも支援を広げる必要性を訴えました。

県は、現在がん患者を対象に市町村を通じた補助を行っている一方で、がん以外も対象とする自治体の事例を把握しており、他自治体の実績や他県の状況を引き続き情報収集していく考えを示しました。

誰もが安心して治療と社会生活を両立できるよう、今後も前向きな検討を求めて参ります。

「千葉県議会中継」の
動画アーカイブはこちら



\\ 令和8年度当初予算・物価高騰対策 //

01

水道料金減免支援事業

物価高騰が続く中、県は県営水道の一般家庭向け料金を7月からの4か月間20%減免します。

多くの家庭で使われる口径20mmでは、1世帯あたり約3,100円の軽減を見込み、暮らしを支える対策を進めます。



02

带状疱疹ワクチン 接種費用補助事業

50代から増える带状疱疹の発症や重症化を防ぐため、県は50歳から64歳の予防接種を助成する市町村を支援します。

痛みが長く残る合併症の予防にもつながり、健康と安心を守る取組です。



03

スマートフォン等 データ分析ツール整備事業

県警は、押収したスマートフォン内の通話履歴やSNSデータなどをAIで整理・分析する新たなツールを導入します。

匿名・流動型犯罪グループの実態解明や中核人物の特定を進め、事件の早期解明と組織壊滅に繋がります。



千葉県議会議員
仲村 ひであき

昭和44年7月2日生まれ
船橋市芝山出身・在住

主な経歴

- 千葉県議会議員（3期）
- 公明党千葉県議会議員団所属
- 総合企画企業常任委員会委員
- 千葉県水道事業運営審議会委員
- 千葉県議会港湾整備振興議員連盟副会長 など

県政についてのご意見をお寄せください

ファックス：047-409-0265

メール：info@nakamura.chiba.jp

ホームページ検索